

令和6年5月24日
子ども・若者部
教育委員会事務局

新BOP学童クラブにおける新たな登退所管理システムの導入について

1 主旨

新BOP学童クラブでは、職員が児童と関わる時間の創出及び保護者の利便性の向上を目的として、令和3年度から、児童の登退所を管理するシステムを導入している（以下、「現行システム」と言う。）。

現行システムの導入以来、日々の業務が効率化されたこと等により、導入以前と比較して、新BOP学童クラブの運営の質は向上している。一方で、現行システムは、機能的な制約により十分な業務改善が図れていない点や、経費が高額である等の課題も有している。

また、区立小学校で使用するシステムとの統合や情報連携の検討も課題となっており、この間、子ども・若者部と教育委員会事務局とで協議を行い、対応の整理を行った。

こうしたことを踏まえ、新BOP学童クラブで使用するシステムについて、より一層職員が児童と関わる時間を創出することに主眼を置き、現行システムのリース機器の契約更新時期である令和7年度から新たな登退所管理システム（以下、「新システム」と言う。）を導入することとし、準備を進める。

2 現行システムの概要

（1）導入の経緯

令和2年9月 公募型プロポーザルにより、システム構築及び運用事業者（株式会社内田洋行）を決定
令和3年7月 15校の新BOP学童クラブで先行導入
令和4年4月 全61校の新BOP学童クラブで導入

（2）主な機能

児童	・登退所時に2次元コードをリーダーにかざして登退所時刻を記録 （2次元コード読取時に保護者あてに登退所を知らせるメールが届く）
保護者	・スマートフォン等から専用ポータルサイトにアクセスし、退所時刻や欠席、帰宅方法等の利用に関する情報等を登録 ・保護者あてのメール受信
新BOP学童クラブ	・児童の登退所管理機能（登退所情報の把握及び利用人数の集計等） ・「お迎え予定一覧」等の各種帳票の印刷 ・保護者あて一斉メールの送信
児童課	・利用率の集計、統計処理等 ・保護者あて一斉メールの送信

(3) 予算額（令和6年度）

41,941千円（特定財源なし）

内訳）システム保守及び使用料 33,898千円

パソコン等機器リース料 8,043千円

3 新システム導入に向けての整理

現行システムは、かねてより①経費が高額であること、及び②区立小学校に導入しているシステムとの統合や情報連携が課題となっており、この間、②の課題について、子ども・若者部と教育委員会事務局で協議し、システム事業者にも確認のうえ、以下のとおり整理した。

(1) システムの統合について

区立小学校で導入している「学校緊急連絡情報配信サービスシステム（すぐーる）」や「統合型校務支援システム」は、いずれも放課後児童健全育成事業を目的として開発されたものではなく、児童の登退所管理機能など、新BOP学童クラブ運営に必要不可欠な機能を備えていないことから、システムの統合は困難である。

また、これらの区立小学校のシステムは、複数の自治体等が共通のシステム環境を共用する仕組みとなっており、必要な機能を付与するための区独自の改修を行うことができない。

(2) システム間の情報連携について

小学校のシステムで収集した個人情報等新BOPへ提供する場合、小学校と新BOP間で毎日のデータの授受や個人情報の取扱いの整理など、新たな事務負担が発生し、事務負担軽減というシステム導入の目的に逆行する。

小学校や新BOPでの児童同士のトラブルや、児童の家庭における要配慮事項など、両者での連携が必要なケースは、日頃から小学校と新BOP間で対面による情報共有を行っていることから、児童の欠席情報など、システムで一律の共有が想定される個人情報について、新たな事務負担をかけて行うメリットや必要性は少ない。

(3) 「子ども見守り」アプリとの関係性について

児童の登下校メール等が配信される「子ども見守り」アプリ等（PTA等が導入し、希望者が有料契約）については、活用におけるアンケート結果から、全体で3割弱の利用であることが分っており、各家庭ではそれぞれの状況に合った子どもへの見守りを行っていることに加え、各学校においても児童・生徒の安全の確保等をとっていることから、登下校の見守りは各学校と各家庭に応じた形で実施することが、現段階では最適と考えている。

今後、地域の安全のあり方や、学校の登下校における関わり方等、社会の変化も踏まえながら、登下校時の見守りについて、どのような形が最適であるか、検討していく。

上記の理由から、今回の見直しにあたっては、区立小学校と新BOP間とでシステムの統合や情報連携は行わず、新BOPの運営にとって最適な、放課後児童健全育成事業に特化したシステムを選定することで、システムの機能を更に向上、拡充し、システム導入の本来目的である、職員が児童と関わる時間の創出及び保護者の利便性の向上をより一層推進するとともに、①の課題（経費が高額）の解消を図ることとする。

【参考】各システムの主な機能の比較表

利用対象	システム	児童	保護者				施設					
		あて通知メール（保護者）	出欠席連絡	登退所時刻連絡	連絡帳機能	アプリによる運用	メール（メッセージ）配信機能	アンケート機能	登退所管理機能	帳票（予定一覧）出力	利用実績（出席簿）の出力	成績管理機能
区立小学校	学校緊急連絡情報配信サービスシステム（すぐーる）	×	○	△	○	○	○	○	×	×	×	×
	統合型校務支援システム	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○
新BOP学童クラブ	現行システム	○	○	△	×	×	○	○	○	○	○	×
	新システム（求める機能）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
PTA導入の「子ども見守り」アプリ（導入が多い一例）※	現在PTAの導入により、運用している範囲の機能	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
	システムが保持している機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

4 新システム導入の視点

新システムの導入にあたっては、以下を主な視点として、公募型プロポーザルにより選定する。

（１）職員が児童と関わる時間の創出及び保護者の利便性向上

現行システムの導入により事務の効率化等は大幅に進んだものの、一方で、現行システムの機能上の制約から、依然として一部の新BOPでは保護者との連絡に紙の連絡帳を利用しているほか、保護者への通知等を紙で印刷、配付している等の事務負担が残っている。

また、かねてより保護者からは、ブラウザではなくアプリでの利用を希望する声や、退所時刻等のより簡便な入力方法を求める声も寄せられている。これらの課題を可能な限り改善できるシステムを選定し、ペーパーレスや手作業の削減を図ることで、職員が児童と関わる時間の一層の創出と保護者の利便性向上を図る。

新システムに求める機能の例	現行システムの状況
連絡帳機能（自由入力欄の文字数増）	入力文字数は最大 10 文字
メールへの電子データ添付機能	テキストメールのみ配信可能
アプリによる運用	ブラウザによる運用
登所時刻の入力欄追加	退所時刻のみ入力可能
登退所時刻の一括登録機能（一週間まとめて登録等）	一日ごとに入力
多言語対応機能	日本語対応のみ

（２）経費削減

現在、他社のシステムには、現行システムと同等以上の機能を有しながら、より低廉な経費で導入可能と見られるものがあることから、システムを入れ替えることで、機能の向上とともに、経費削減を目指す（例年の経費が、現行システムの半額程度となることを目標とする）。

(3) 安定的なシステム運用

現行システムは、昨年度、一時的にログインできなくなる等のシステム障害が複数回生じた。その都度原因究明し、対策を講じてきてはいるものの、より安定したシステム運用を実現できるよう、システム障害の発生頻度が少なく、かつ万一のトラブル対応にも優れたシステム及び事業者を選定する。

5 今後のスケジュール（予定）

令和6年	6～7月	プロポーザルによる事業者選定／契約
令和6年	8～9月	導入作業（管理用端末の各施設への納品含む）
令和6年	10月	
	～令和7年	3月
		各新BOPでの操作研修
		システム入替にかかる保護者周知（保護者による試用期間含む）
令和7年	4月	新たな登退所システム本格運用開始